

# 青梅上成木ふれあいの森

## 活動地域内の植生と特定植物のモニタリング調査記録 VIII

1. 実施日 平成 27 年 11 月 13 日

2. 観察ルート 里仁会館～都道 202 号～常盤林道～大滝～イラクサの道～サエズリの谷～サエズリの道～スミレの道～リンドウ坂～アジサイの道～瀬沢出合い（大滝作業道口）～常盤林道～都道 202 号～里仁会館

### A. 里仁会館～常盤橋（都道 202 号沿い）

- ・ナギナタコウジュ（薙刀香薷） シソ科ナギナタコウジュ属の 1 年草 前回 10 月の観察で瀬沢出合い周辺でたくさん咲いているのが見られたが、今回、里仁会館前の南側斜面に花が終わり紅葉した 1 株のナギナタコウジュを見つけた。
- ・アシボソ（足細） イネ科アシボソ属の 1 年草 細い棒状の花穂を付けたイネ科の雑草で、都道 202 号沿いで自生を確認。
- ・ヘクソカズラ（屁糞蔓） アカネ科ヘクソカズラ属で蔓性の多年草 都道 202 号沿いの所々で見られるヘクソカズラの実が黄褐色に変色している。
- ・ナンテン（南天） メギ科ナンテン属で中国原産の常緑性の低木 里仁会館周辺から都道 202 号沿いにかけて人家の庭先などに多く見られるが、ほとんどの南天の実が真っ赤に熟しはじめています。



ナギナタコウジュの紅葉



アシボソの細い花穂



黄褐色に熟したヘクソカズラの実



真っ赤に熟したナンテンの実

- ・里仁会館前、都道 202 号沿いの南側斜面にはツリフネソウ（ツリフネソウ科）とキク科のノハラアザミ、アメリカセンダングサの咲き残りがまだたくさん見られる。
- ・都道 202 号沿いのベニバナボロギク（キク科）はそろそろ花は終わりでタンポポの綿毛に似た白い綿毛を付けている。
- ・都道 202 号沿い、白糸の滝の少し上流の民家の庭先できれいに紅葉した桜が見られる。

### B. 常盤橋～大滝（常盤林道沿い）

- ・シュウカイドウ（秋海棠） シュウカイドウ科シュウカイドウ属の多年草 前回 10 月の観察では常盤林道沿いでたくさんの実を付けていたシュウカイドウが、今回は茎の付け根にムカゴを付けている。
- ・シロヨメナ（白嫁菜） キク科シオン属の多年草 ヨメナの名があるがシオン属の野菊。この季節は同じシオン属のノコンギクやヨメナ属のカントウヨメナあるいはユウガギクなど、野菊の咲き残りがまだ常盤林道沿いの所々で見られる。

- ・オオバアサガラ (大葉麻殻) エゴノキ科アサガラ属の落葉高木 初夏に白い藤の花のような花穂が垂れ下がっていたが、今は灰褐色に枯れたたくさんの実を付けている。
- ・ボタンヅル (牡丹蔓) キンポウゲ科センニンソウ属で蔓性の落葉半低木 前々回9月の観察で見かけた花後の特徴的な実がこの季節は白い綿毛に変わり、遠目には雪を被ったように見える。



シュウカイドウのムカゴ



シロヨメナ



オオバアサガラの枯れた花穂



綿毛を付けたボタンヅル

- ・都道 202 号沿いから常盤林道沿いにかけてタマアジサイ (ユキノシタ科) の咲き残りがまだ多く見られ、タデ科のミズソバ、ミズヒキ、イヌタデ、ハナタデなどの咲き残りもまだ群生状態で見られるが、花はそろそろ終わりで実が付きはじめています。
- ・常盤林道沿いと大滝近くでタイアザミ (キク科) がまだ少し咲き残っているが、そろそろ花は終わりで花、葉茎とも枯れはじめています。

### C. 大滝～イラクサの道～サエズリの谷～サエズリの道～スマレの道～リンドウ坂

- ・ツルリンドウ (蔓竜胆) リンドウ科ツルリンドウ属で蔓性の多年草 イラクサの道入口の少し先、右手山側斜面のモニタリングポイント①のツルリンドウはすべて花が終わり、実が真っ赤に熟している。
- ・センブリ (千振) リンドウ科センブリ属の2年草 スマレの道 (日向) のセンブリは今回の観察ではすべての株の花が終わり、実が付きはじめているのを確認。
- ・リンドウ坂の東京都環境保全看板近くのモニタリングポイント②のツルリンドウは生育状態が良く蔓を伸ばした株のすべて花が終わり、それぞれ真っ赤な実をいくつか付けている。前回の観察までは大小 28 株の自生が確認されていたが、今回、更に小さいが2株増えているのを確認、全部で30株となる。
- ・アジサイの道に向かうリンドウ坂の途中のモニタリングポイント③のツルリンドウもすべて花が終わり、実が真っ赤に熟しており、今回、その周囲に新たに6株ほど小さな株が出ているのが確認されたので、その周囲全体を篠竹で囲いをする。来年、これらの株が蔓を伸ばして順調に生育することができるか継続的に要観察。
- ・オクモミジハグマ (奥紅葉白熊) キク科モミジハグマ属の多年草 アジサイの道に向かうリンドウ坂の途中のモニタリングポイント③のツルリンドウの近く (すぐ下) に1株の自生を確認、その周囲を篠竹で囲いをして小さな木片の名札を付ける。
- ・前回10月の観察のとき、リンドウ坂から大きくカーブしてアジサイの道に下りる山道の途中で、花が終りかけた1株のカシワバハグマの自生が確認されたが、今回、この山道からアジサイの道にかけて数株のカシワバハグマとオクモミジハグマの自生を確認。数年前にはこの辺りでよく見られたカシワバハグマ、オクモミジハグマが最近はあまり見られなくなっていたが、数年前からの山道補修工事により植生環境が回復したことで自生数が増えたと思われる。



大滝近くのツルリンドウ



センブリの実



アジサイの道に向かうリンドウ坂途中、囲いをしたツルリンドウとすぐ近くのオクモミジハグマ



#### D. アジサイの道～涸沢出合い（大滝作業道入口）

- ・サワギク（沢菊）キク科キオン属の多年草 夏に活動エリア内の所々で黄色い花を咲かせていたが、この季節にはロゼット状の根生葉がアジサイの道の所々で見られる。
- ・ガクウツギ（額空木）ユキノシタ科アジサイ属の落葉低木 この季節にまだ濃い緑色の葉を持ったガクウツギがたくさん小さな実を付けアジサイの道や活動エリア内の所々で見られるが、中には葉茎の先端が切れたものもあり、これは鹿の食害によるものではないかと思われる。
- ・前回 10 月の観察でアジサイの道から涸沢の所々で見られたナギナタコウジュ（シソ科）も既に花が終わりたくさんの実を付けている。



サワギクのロゼット状の根生葉



花後の実と鹿の食害で葉茎の先端が食べられたガクウツギ



ナギナタコウジュの実



#### E. 涸沢出合い（大滝作業道入口）～大滝（常盤林道沿い）

- ・ミツバベンケイソウ（三葉弁慶草）ベンケイソウ科キリンソウ属の多年草 前回 10 月の観察で涸沢出合いから大滝間の常盤林道沿いのミツバベンケイソウは花が終わり、少しづつ実が付いてきたのが確認されたが、今回、すべての実が茶褐色に変色してきた。
- ・シラネセンキュウ（白根川弓）セリ科シシウド属の多年草 常盤林道沿いの随所で見られるが、そろそろ花は終わりで、小さな実をたくさん付けている。
- ・ヌルデ（白膠木）ウルシ科ヌルデ属の落葉小高木 きれいに紅葉したヌルデが常盤林道沿いの所々で見られる。



ミツバベンケイソウの実



シラネセンキュウの実



ヌルデの紅葉

- ・**シュウブンスウ (秋分草)** キク科シュウブンスウ属の多年草 秋分の日の頃に咲くのでこの名があり、花は小さくてとても地味。涸沢出合いから大滝間の常盤林道沿いで自生を確認。
- ・**フユイチゴ (冬苺)** バラ科キイチゴ属で蔓性の落葉小低木 夏から秋にかけて咲いた花が終わり、真っ赤な実をたくさん付けはじめている。これから冬にかけ常盤林道沿いを赤く彩る。



シュウブンスウ



フユイチゴの実

- ・アジサイの道沿いや涸沢出合いから大滝間の常盤林道沿いなど活動エリア内でたくさん見られるマツカゼソウ (ミカン科) も秋のこの季節、花はほとんど終わりたくさんの小さな実を付けている。

### 3. 総括

- ・常盤林道沿いをはじめ、活動エリア内の広葉樹の紅葉は少しづつ進んでいるが、本格的な紅葉はこれからで、毎年、常盤林道沿いを真っ赤に彩るイロハモミジ (カエデ科) はまだあまり色付いておらず、また、近年の異常気象による天候不順のせいも、色付き方が悪いように思われる。
- ・今年モニタリングを実施した3ヶ所のツルリンドウは生育のよい株については開花と結実が確認されたが、来年も同じように開花、結実するか、また今年生育が悪く花を付けなかった小さい株が今後蔓を伸ばして順調に生育できるか引き続き要観察。
- ・今年モニタリングを実施したスマレの道 (日向) のセンブリについてもすべての株の開花と結実が確認されたが、2年草であることから来年も篠竹で囲いをした同じ場所に生えるか、あるいはその周辺にどの程度自生するか、また更に自生数が増えるか引き続き要観察。
- ・今年モニタリングを実施した東京都環境保全看板から少し下がったリンドウ坂のイチヤクソウは今年1株だけが開花、結実が確認されたが、常緑性の植物なので、小さかった株も含めて来年以降も生育について引き続き要観察。

編集 青梅上成木ふれあいの森 しぜん部